

日本人に増えている 「正常眼圧緑内障」

中年以降にかかりやすく、自覚症状が少ないので、いつのまにか進行していることが多いといわれている緑内障。一度失った視野は薬でも手術でも快復することはありません。だからこそ、早期発見と適正な治療が必要なのです。

やすだ のりこ 安田典子
東京警察病院 眼科部長



1977年、昭和大学医学部卒業。同年 東京警察病院眼科。88年、須田賞(須田記念緑内障治療研究奨励賞)受賞、90年、日本緑内障学会評議員、94年、東京警察病院眼科部長。監修に「あなたの医学書 目の病気」(誠文堂新光社)

イラスト・内山享子

気づかないうちに進行し、
視野が狭くなる病気

四十歳以上の二十人に
一人は緑内障

加齢に伴う目の病気はさまざまあり、しかも自分では気づきにくいものも少なくありません。なかでも、自覚症状に乏しく、難治の病として知られるのが緑内障です。

緑内障は、日本人の後天失明原因の第一位を占める疾患です。日本緑内障学会の調査では、四十歳以上の日本人の5%が緑内障を発症していると報告されています。しかも、この調査では、患者さんの九割近くが、緑内障に気づいていなかったことも明らかになりました。

このような調査結果からもわかるように、緑内障を発症して

いても、実際に治療を受けている人はかなり少ないと推測されます。その背景には、緑内障が自分で発見しにくい病気であることに加え、眼科の定期検診を受ける習慣が普及していない事情もあると考えられます。

**視神経が障害され
視野が欠けていく病気**

目の網膜の視神経繊維が集まり視神経となり、光が当たると、その情報が脳へ伝えられます。その視神経が何らかの原因で障害を受け、視野(見える範囲)が狭くなったり、部分的に見えなくなったりするのが緑内障です(図表1)。

視神経の障害とかかわっているのが、眼球の形を保つ働きを

担う眼圧(眼球内の圧力)です。眼圧は、「房水」という液体がパランスよく産生・排出し、目の中を循環することによって一定に保たれています。

房水は「毛様体」でつくられ、角膜と水晶体に酸素や栄養を供給しています。そして、角膜と虹彩の間の「隅角」にある「線維柱帯」でろ過され、目の外に排出されます。

この房水の流りに支障が生じると、産生と排出のパランスがくずれ、眼球内に房水がたまり、眼圧が上がります。

すると視神経が圧迫され、障害されます。障害された視神経の情報は脳に伝わらないので、その部分の視野が欠けてくるのです。

眼圧が正常範囲の人也要注意

ところが、眼圧が正常の範囲内(10~21mmHg)でも緑内障になる人もいます。こうしたタ

イブの緑内障を「正常眼圧緑内障」といい、日本人の緑内障の約七割を占めています。

なぜ、眼圧が正常でも緑内障になるのか、その理由は判明していません。現在のところ、眼圧に対する視神経の抵抗力が弱い人は、正常眼圧緑内障になりやすいという説が有力です。

視神経に障害を及ぼさない眼圧(健常眼圧)には、個人差があります。眼圧が正常かどうかと

いうのは、あくまでの統計的なもので、眼圧が正常の範囲内でも、その人にとって高い眼圧なら、視神経に障害が現れてくるのです。

そのほか、視神経の血流障害や遺伝も正常眼圧緑内障に関係するという説もあります。

正常眼圧緑内障は、眼圧は正常範囲でも視神経が傷つきやすいので、眼圧が高い緑内障と同じように、眼圧を下げる治療が

必要になります。

米国で正常眼圧緑内障の患者さんを対象に行なわれた研究では、治療をして眼圧を三〇%低下させたグループは、眼圧を低下させなかったグループに比べて、視野障害の進行が抑えられることがわかっています。

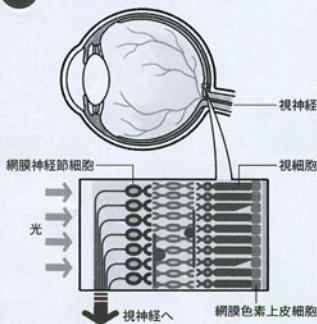
視野の欠けに気づきにくいのはなぜ？

一般に、視神経に障害が起こっても、すぐには視野の欠けは現れません。視野の欠損自体も、十年以上にわたって徐々に進行していきます。

視野の欠けは、最初は光の感度が落ちる程度のものから始まり、中心から少し離れたところから小さな暗点(見えな部分)ができます(P.78・図表2)。しかし、視野の中心部分は残るので、視力に変化はありません。

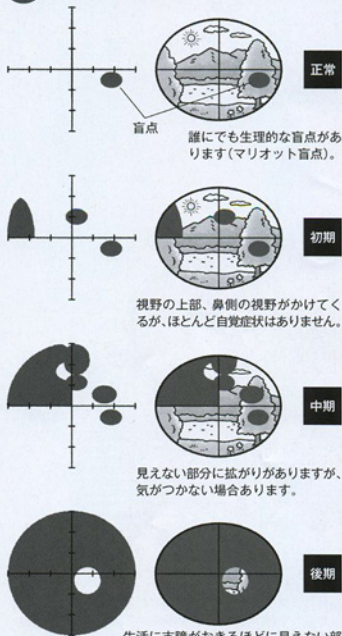
このように、視野が欠けても視力の低下を伴わないことが、

図表1 視野が狭くなる理由



視神経は約120万本の細い神経線維が集まって束になったものです。神経線維は網膜全体を覆っている網膜神経節細胞から伸びており、大脳につながっています。視神経の障害が進むと、視神経線維の数が減り、視神経から脳に情報が正確に伝わらなくなります。

図表2 緑内障の視野障害の進み方は(右眼の場合)



緑内障の発見を遅らせる大きな要因になるのです。

緑内障は、基本的に両目に発症することが多いのですが、正常眼圧緑内障などでは、片方の目にかかることもあります。片目の視野が欠けても、もう一方の目でそれを補って見ているため、目の異常に気づきません。病状がかなり進まないと、視野欠損という自覚症状が現れないのが普通です。

点眼薬で眼圧を下げ 障害の進行を抑える

眼圧だけでなく視野や 視神経の状態も調べる

ん。そのため、緑内障の進行を防ぐためには、早期発見が何よりも肝心です。

一度失われた視野を元に戻す治療法は、今のところありません。

COLUMN

急性発作を 起こすこともある 緑内障

眼圧が急上昇して突然、目の充血、強い目の痛み、激しい頭痛、吐き気などの症状が起こるタイプの緑内障もあります。これは、隅角がふさがって房水が行き場を失い、眼圧が急激に上がるために起こるものです。治療が遅れると、失明の危険性もあるので注意が必要です。

急性緑内障発作は、もともと隅角が狭い遠視眼中高年の女性に起こりやすいといわれています。

急性発作が起こる前ぶれとして、目がかすんだり、電球のまわりに虹のようなものが見えたりする症状が出る場合があります。